

3-5 関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は、最近の高度基準点測量結果と過去の測量結果との比較による東関東地方の水平歪である。大きく見て北東南西方向の圧縮場であることを示唆する結果である。

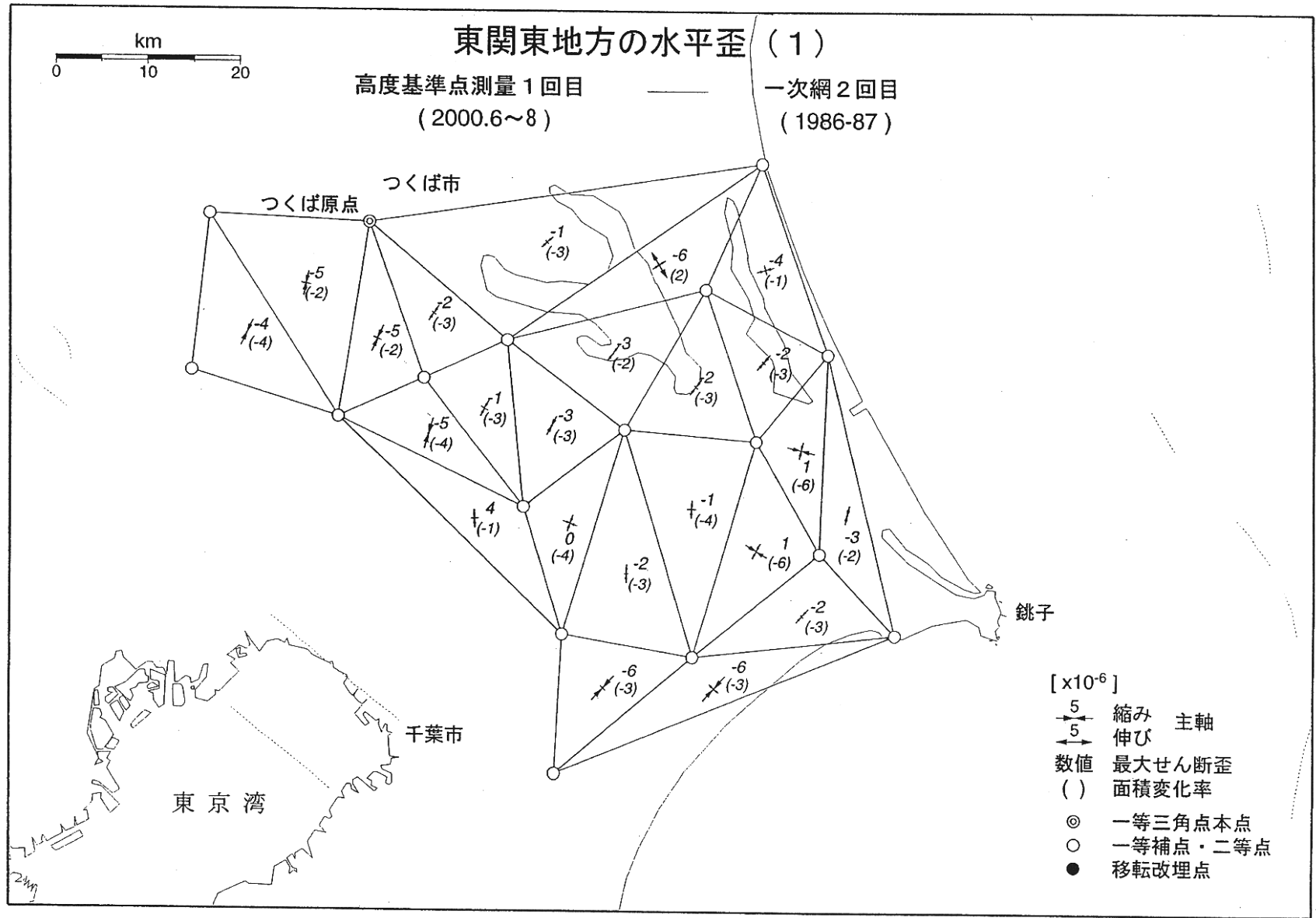
第2図は、三浦半島の水準測量結果である。最新結果は1999年と2000年の比較であるが、大きな変動は見られない。

第3図は、水準原点を基準とした三浦半島の水準点の上下変動であるが1960年代からほぼ一定の速度で三浦半島が沈降しており、半島の先端側に行くほど沈降のスピードが速い。

第4図は、関東地方の験潮場の月平均潮位差である。特に大きな傾向の変化は見られない。

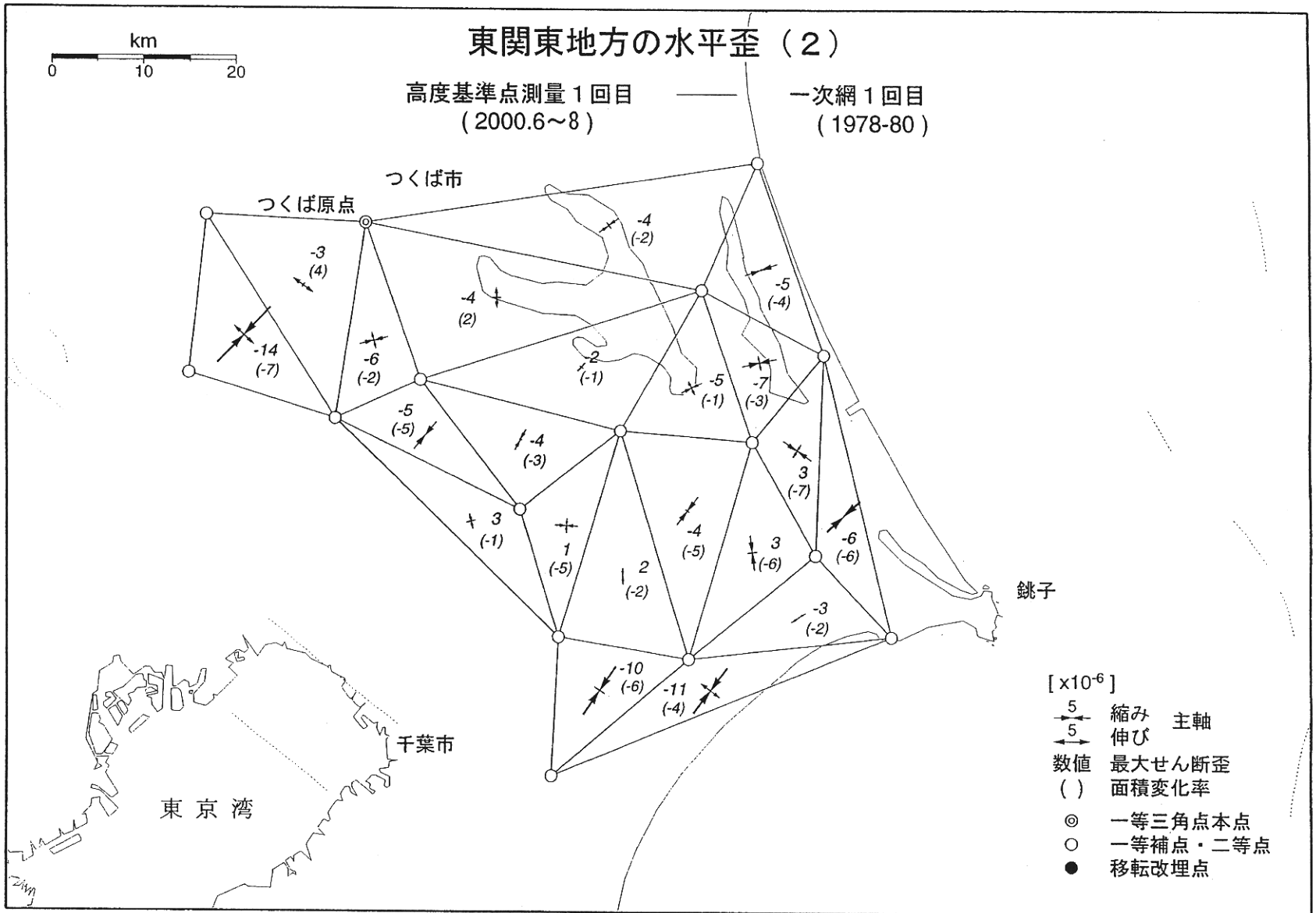
第5図は、水準測量および験潮結果から求めた油壺および布良験潮場固定点の上下変動である。水準測量結果は東京原点を基準としており験潮結果はそれぞれの験潮場の平均海水面を基準としている。両者は概ね一致しており、平均海水面を基準とした東京原点の標高はこの間大きく変動していないこと、および平均海水面を基準として、油壺および布良は年約3.5mmの速度で沈降していることが読み取れる。

第6図は、鹿野山精密辺長測量結果である。1995年の破線で示す時点で鹿野山の器械点の場所が変更されており、データの継続性はないことに注意を要する。南北および北西-南東方向の基線はほぼ単調に縮んでいるが、東西基線は最近伸びに転じたように見える。



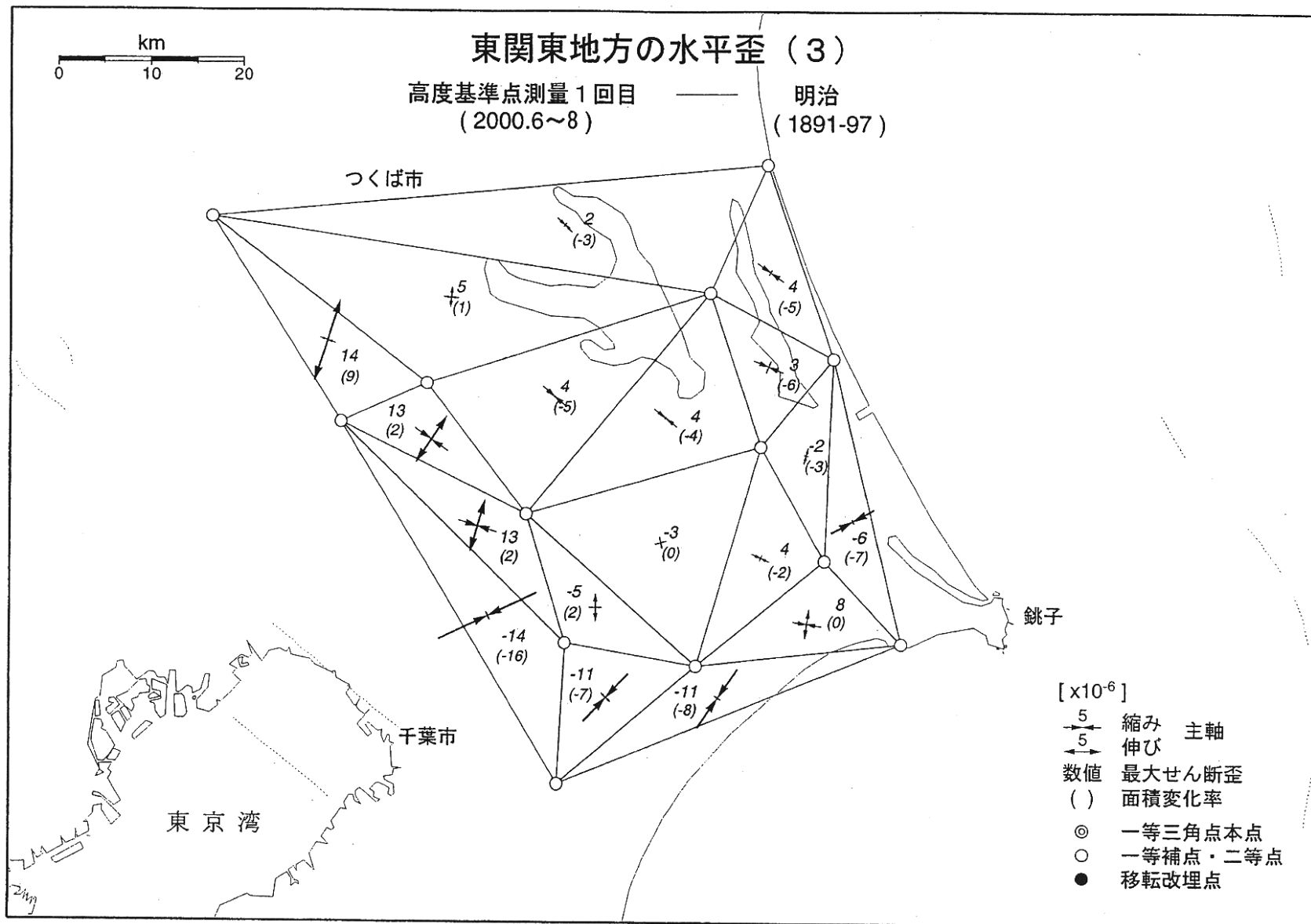
第1図-(1) 東関東地方の水平歪(1)

Fig.1-(1) Horizontal Strain derived from comparison between recent survey result and previous results (1 of 3).



第1図-(2) 東関東地方の水平歪(2)

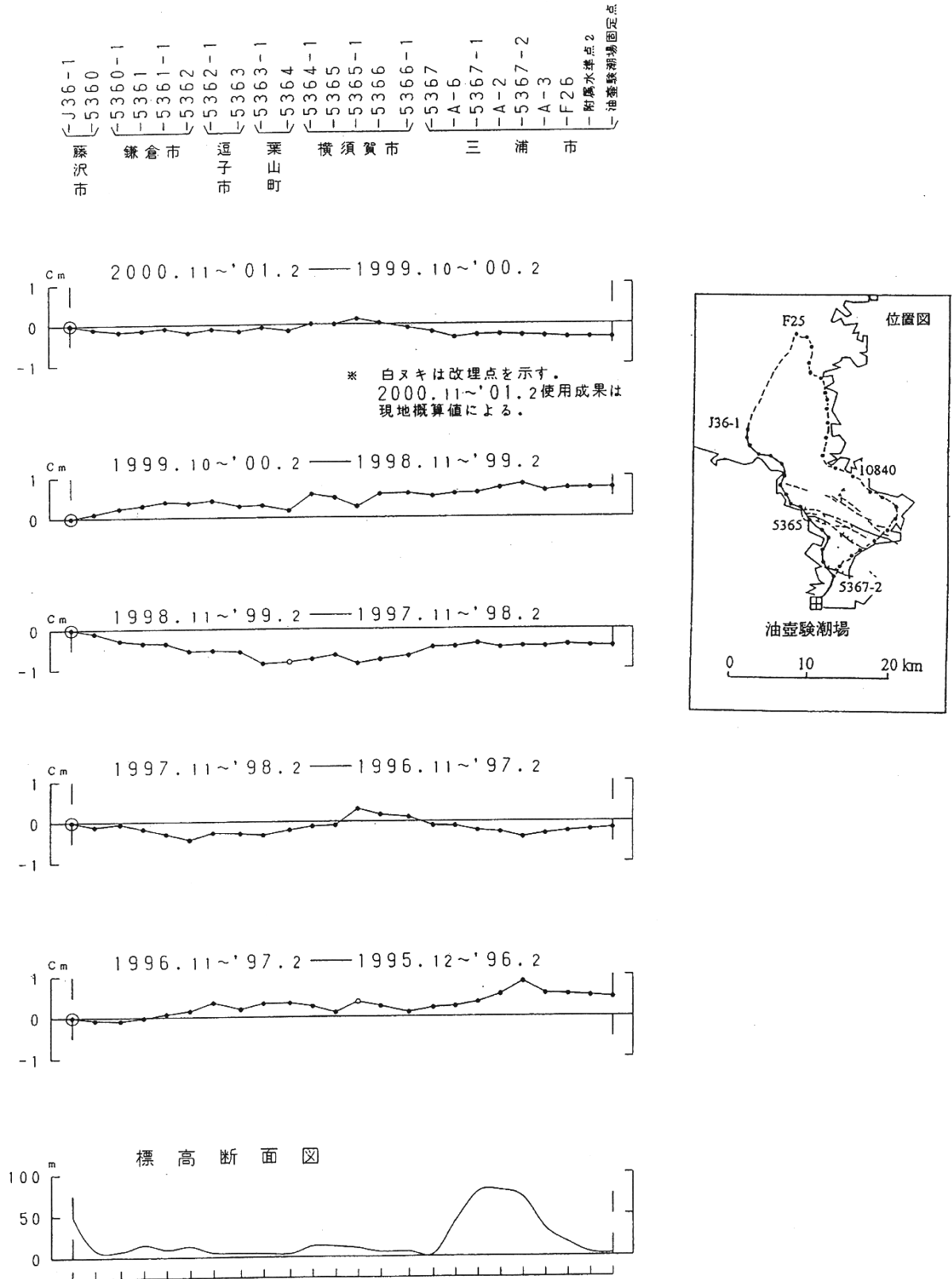
Fig.1-(2) Horizontal Strain derived from comparison between recent survey result and previous results (2 of 3).



第1図-(3) 東関東地方の水平歪(3)

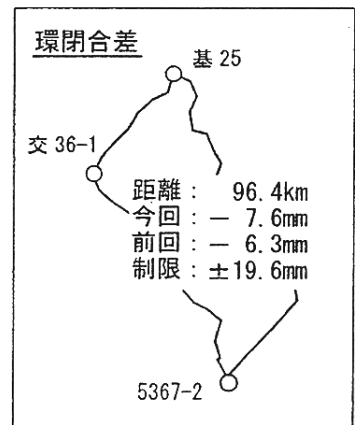
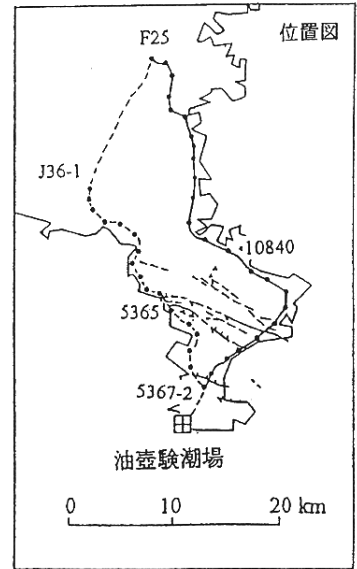
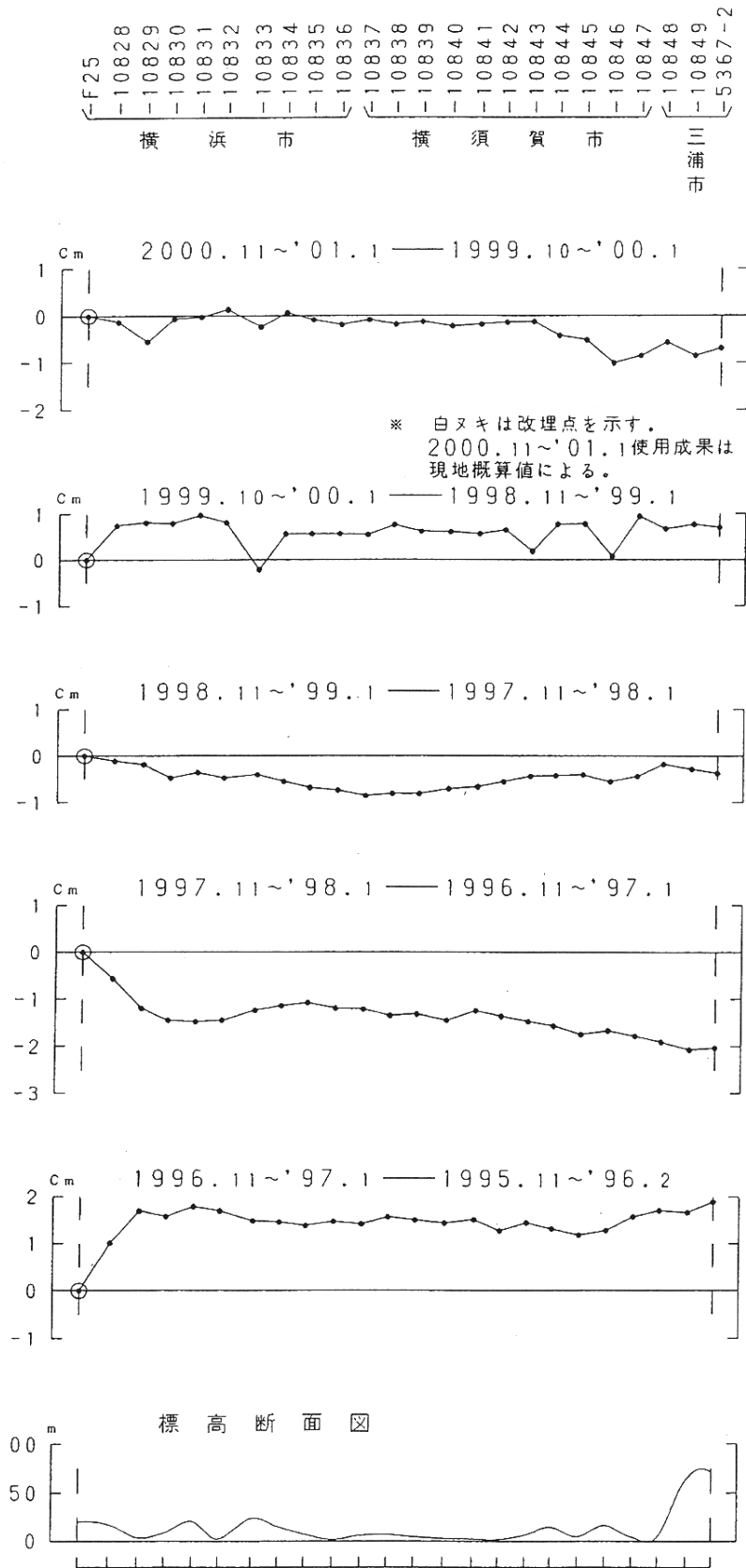
Fig.1-(3) Horizontal Strain derived from comparison between recent survey result and previous results (3 of 3).

三浦半島西側地方の上下変動



第2図-(1) 水準測量による三浦半島の上下変動(1)

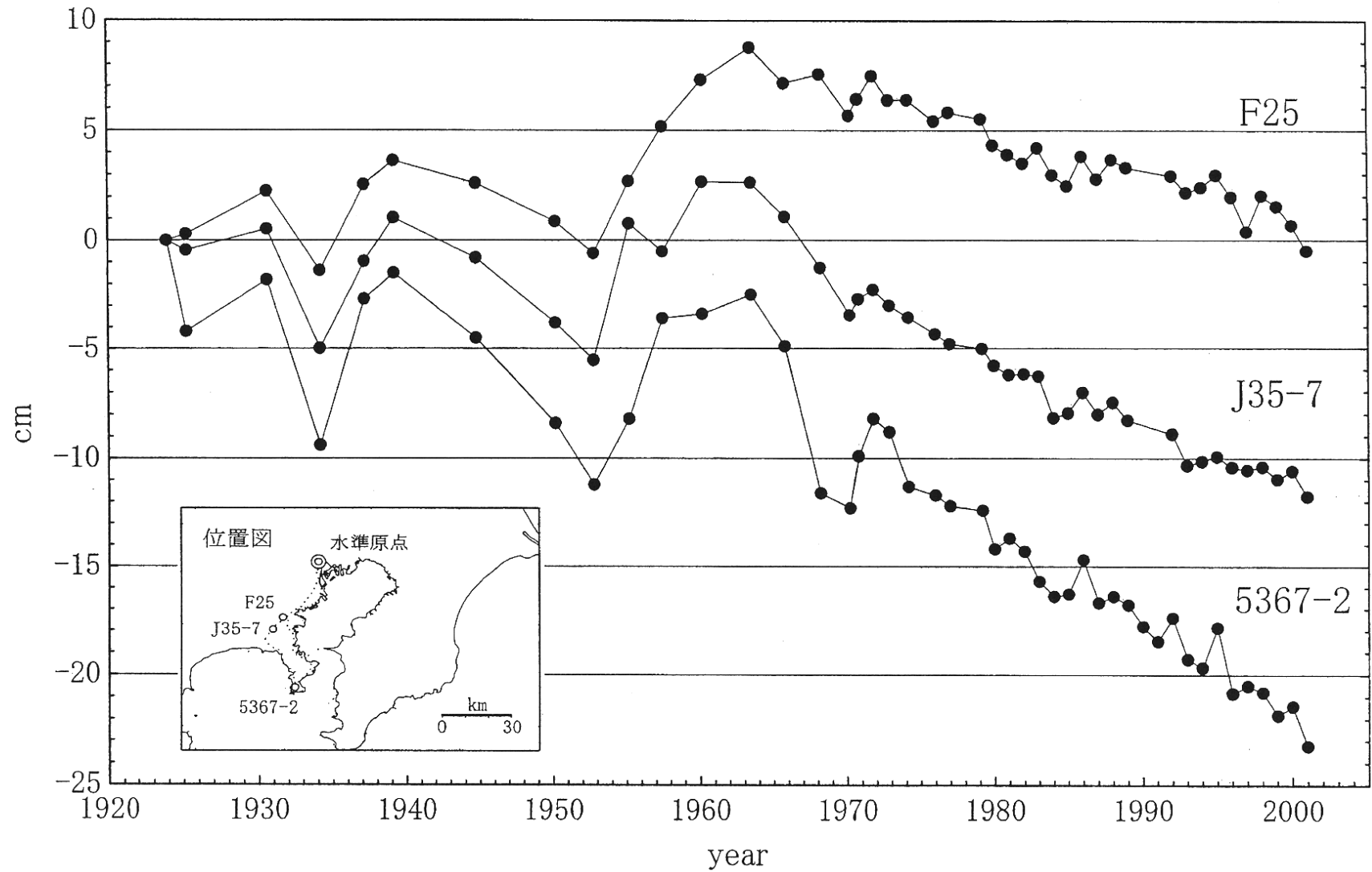
Fig.2-(1) Vertical movements of Miura peninsula derived from precise leveling (1 of 2).



第2図-(2) 水準測量による三浦半島の上下変動(2)

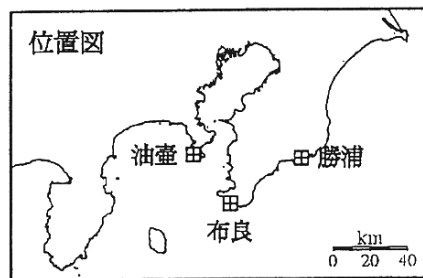
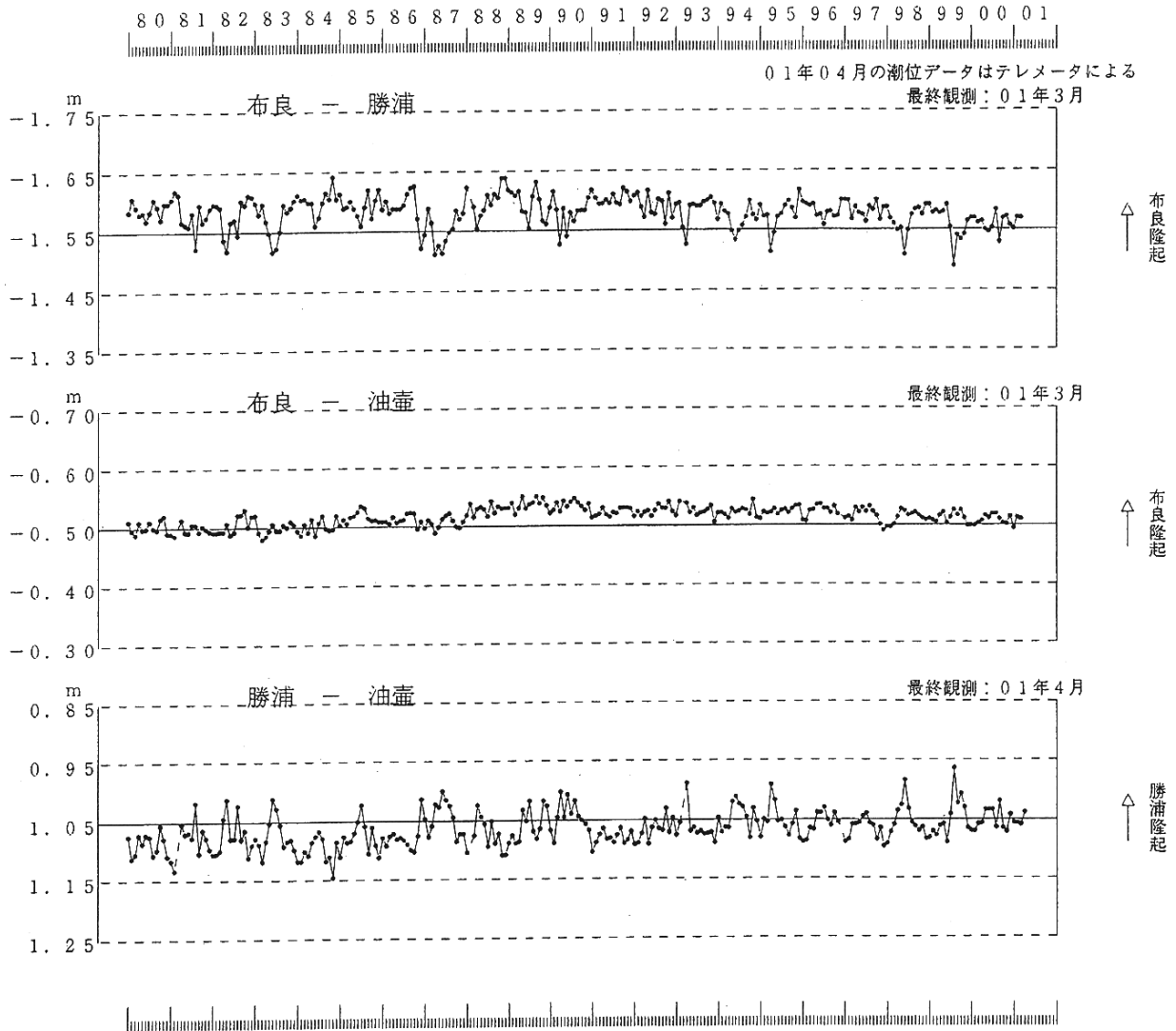
Fig.2-(2) Vertical movements of Miura peninsula derived from precise leveling (2 of 2).

水準原点を基準とした三浦半島
(一等水準点)の上下変動



第3図 最近約80年間の三浦半島の上下変動

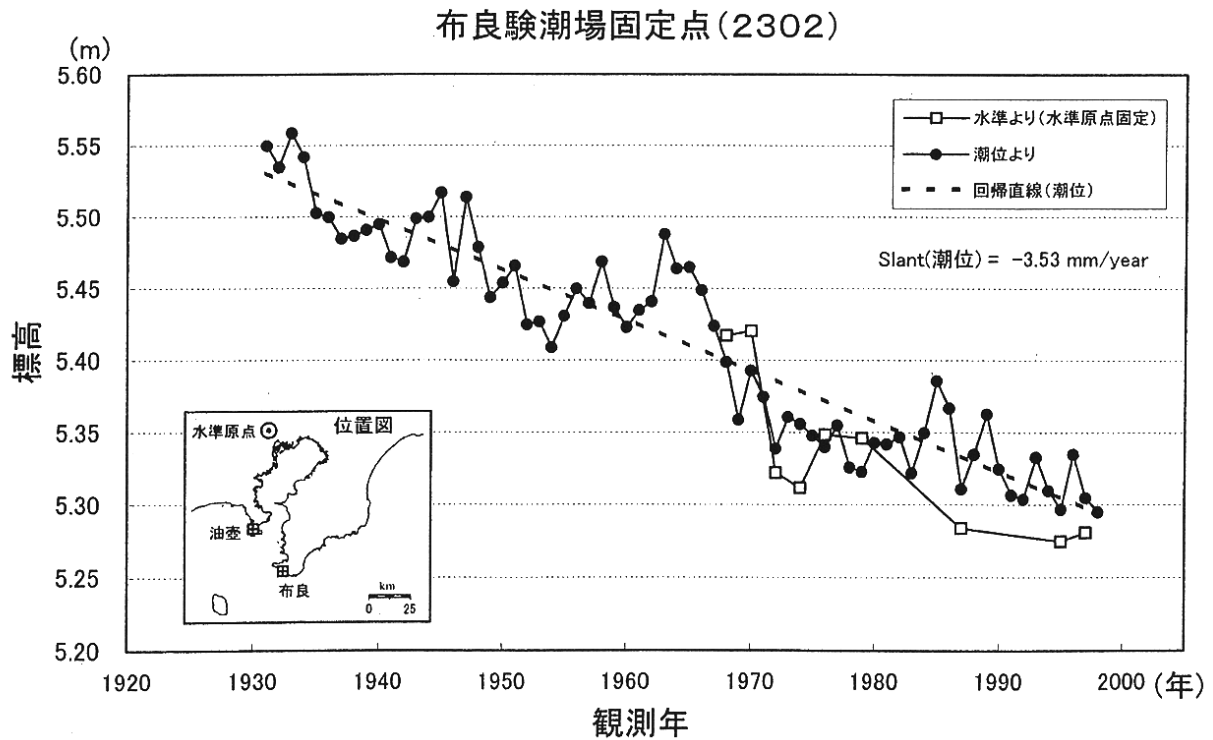
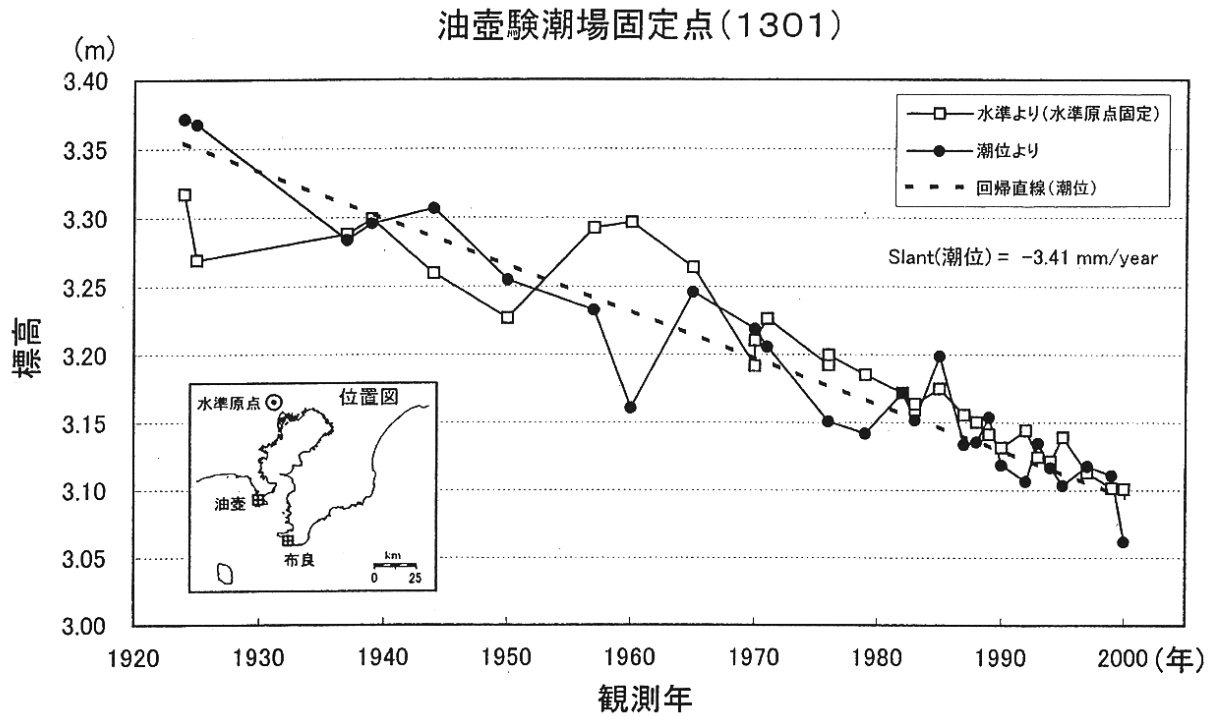
Fig.3 Vertical movements of Miura peninsula during the recent 80 years derived from repeated precise leveling surveys.



第4図 油壺、布良、勝浦験潮場間月平均潮位差

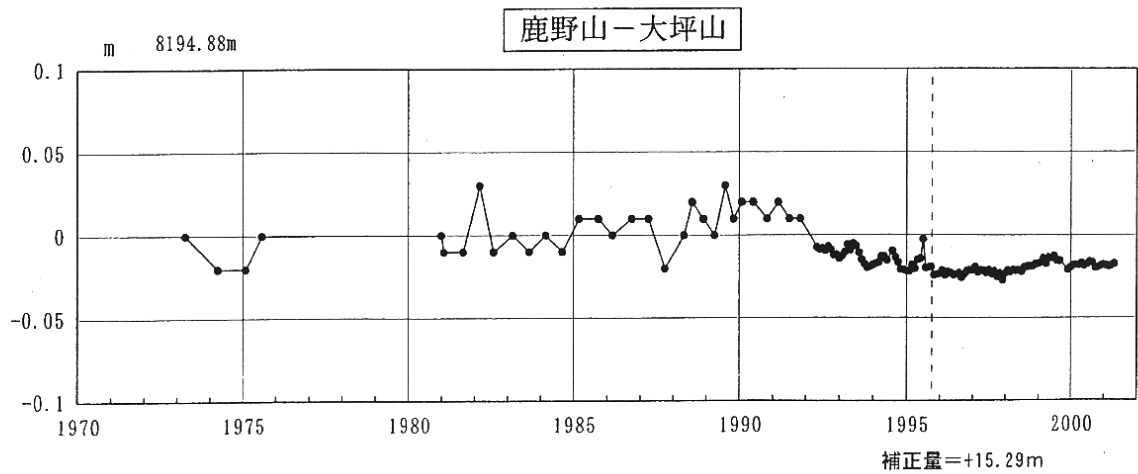
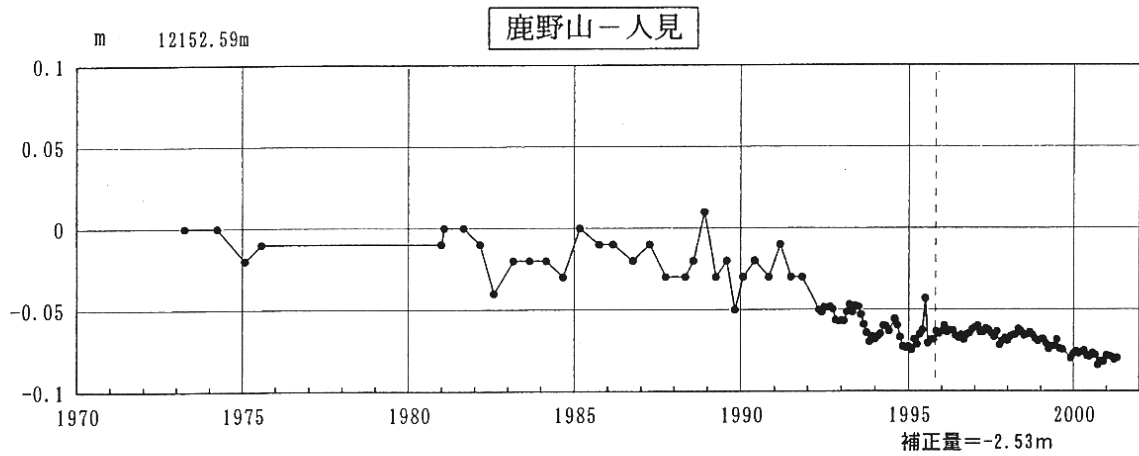
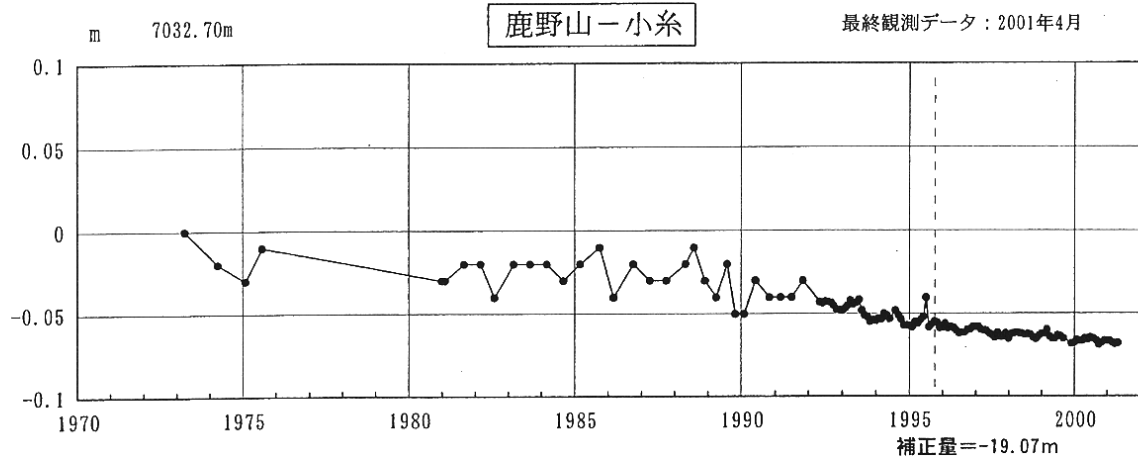
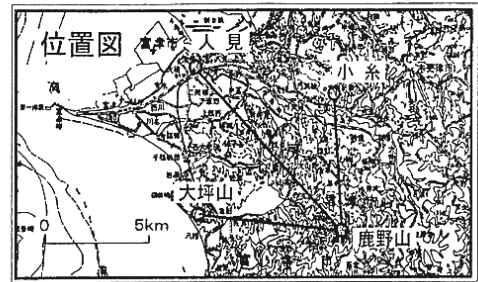
Fig.4 Comparisons of monthly mean values of sea level measured at 3 tide gauge stations in Kanto area.

水準・潮位による験潮場固定点の変動



第5図 水準および験潮結果から求めた験潮場固定点（油壺および布良）の最近約80年間の上下変動
 Fig.5 Vertical movement of bench marks near Aburatsubo and Mera tide gauges during the recent 80 years derived from repeated precise leveling surveys and tide observation.

1992年4月からのデータは月平均値
 1995年10月から器械点移動



第6図 鹿野山精密辺長測量結果

Fig.6 Results of precise distance measurements at Kanozan.